

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標に基づいたディプロマ・ポリシーを策定(設定)する。	→ディプロマ・ポリシーの明示・公開(2011年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	C	B			
2. 学位授与基準、修了認定基準を明示する。	→学位授与基準、修了認定基準の明示・公開(2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	C	C			
3. ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを(設定)する。	→カリキュラム・ポリシーの明示・公開(2013年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	C	C			
4. 前期課程を修了し、伝道者(牧師、聖書科教師など)として働いている者が入学できるリカレント・プログラムを、博士課程後期課程において、ないし、外国の大学との協力により、設ける。	→学位の新設(規程改正)。	D	D			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.1.1	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(学位授与方針) 【博士課程前期課程】 博士課程前期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に2年(4学期)以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に修士の学位を授与する。 1. 神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行う能力を修得している。 2. キリスト教神学・伝道者コースにおいては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる力量を身につけている。さらに、教会などのフィールドで経験したことを理論的に反省し、それを再び実践へと活かすことのできる能力を修得している。 3. キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これとキリスト教的な立場から取り組み、解決できる力量を身につけている。 【博士課程後期課程】 博士課程後期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に3年(6学期)以上在学して所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に博士(課程博士)の学位を授与する。 高度な神学研究を続けるために必要な知識と論文執筆や学会発表のできる学問的な能力、文献読解に必要な古典語および外国語を自由に駆使する能力を高め、3年間にわたり専門分野の研究に集中して取り組み、神学の専門家として社会と教会とに貢献できる能力を修得している。 (説明) 前期課程および後期課程のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)については明文化し(2011年3月研究科委員会承認)、2011年度入学生および在学生対象の履修指導で公開・説明を行った。
小項目6.1.2	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない (教育課程の編成・実施方針) [明文化に至っていない] 前期課程および後期課程のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)については、カリキュラム研究委員会(研究科)をはじめ部長室委員会および研究科委員会を軸に検討を進めているところである。ディプロマ・ポリシーと現在検討中のカリキュラム・ポリシー(2011年度中に策定)を2012年度以降の『履修の手引』(履修心得)に掲載し、前期課程・後期課程在学生に対して明示する予定である。
小項目6.1.3	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 周知・公表している <input checked="" type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 神学研究科の教育目標は、理念・目的とあわせ、すでにWEBサイトにて公開している。現在検討中のカリキュラム・ポリシーの策定を待って、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)をどのように体系化し、公表するか検討を行う。2011年度中には明示する予定である。
小項目6.1.4	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない 検証の仕組みは、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を整えた後、各ポリシーに基づいた学位授与および修了認定基準を明示するにあたって、具体的な検討を開始する予定である。
その他	

《評価指標データ》

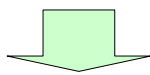
カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
必修・選択ごとの開設授業科目数
系列別卒業必要単位数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	リカレント・プログラムにおいてははまだ検討されていない。(意見交換後、改善すべき事項に移動)
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

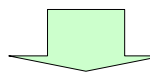
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	学位新設の可能性、およびそれに付随するプログラムについて情報を収集し、検討を開始する。(意見交換後、改善方策に移動)
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	リカレント・プログラムにおいてははまだ検討されていない。(意見交換後、効果が上がっている事項より移動)
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	学位新設の可能性、およびそれに付随するプログラムについて情報を収集し、検討を開始する。(意見交換後、伸長させるための方策より移動)
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 「目標」2,3についても進展のめどは立っていると評価できます。
- 「目標」4は、「生涯学習」や「国際化」等のキーワードにも関係する意欲的な取り組みと思われます。今後の進捗が期待されます。

【学内委員】

- ディプロマポリシーを設定し明文化したことは、評価できます。「効果が上がっている項目」の小項目6,1,4にリカレント・プログラムのことが述べられていますが、この項に含めるのは適切ではないと考えます。また、何が「検討されていない」のかが不明確です。
- まずはCP、DPを早急に策定されることが望まれます。APも合わせた体系化も含めて2011年度中に明示する予定とのことですので、期待します。
- 大学院における本項目への対応は全学的に遅れていると言わざるを得ませんが、目標を設定し、対応すべく努力されています。目標の達成に期待します。
- 小項目6.1.4は定期的な検証を求めています。そのシステム作りが重要かと思えます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1

基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.2

基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.3

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.1.4における効果が上がっている事項について、これは改善すべき事項の誤りである。2009年度設定目標4（リカレント・プログラム）では、適切な学位授与方針および教育課程の編成・実施方針のもとに、教会や教育の現場にある者を対象に専門職学位（博士レベル）を与えるプログラムを想定している。これについては学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を継続的に検証していくなかで、新しい学位の取得における適切な手続きが考えられなくてはならない。学位新設の可能性およびそれに付随するリカレント・プログラムについて、特に先進的な北米の大学における情報の収集および協力体制を模索しつつ検討していく。

★